

ぼう災のためにわたしが出来ること

宮崎市立西池小学校 四年 日隈 彩希

宮崎県では、夏になると毎年のように台風
がや、てきて、はげしい雨がふりつづくこと
があります。台風以外でも、線状^{じょうちゅう}この水帯と
いり雨雲が発生して何日も雨がふることがあ
ります。

わたしは、台風がきたり、大雨がふ、たり
すると、とてもこわくてふ安な気持ちになり
ます。とくに、はなれてくわしている祖父^{そふ}と

そふ

祖母のことが心配になります。なぜなら、祖

父の家は山と川の間にあるからです。ニ^ニー

スで、山がくずれて家がつぶれたり、川の水
があふれて車が流されたりしているえいそり
を見ると、

おじいちゃんとおばあちゃんは、大じより
ぶかな。

と、それぞれわしてしまいます。そんな時わた

しは、お母さんからスマホをかりて、祖父や
祖母^{そぼ}にメールを送るよりしています。大

雨けいほりが出ているので、運転に気を付け
てね。や、早めにひなんしてね。と、送り
ます。すると、祖母から、「心配してくれて
ありがとり。大じよりぶだよ。」と返事がきた
り、電話がかかってきたりします。返事が返
ってきたりすると、うれしくて安心した気持
ちになります。祖父と祖母も、とてもよろこ
んでくれています。

でもわたしがいつも心配しているのを見て、
祖父が近くの川の工事の話をしてくれました。

祖父の家そふの家の近くを流れている川は五年くらい
前までは周りに草がいっぱい生おいしげってい
て、川そこには土砂や石ころがたまり、水の
流れが悪くなっていたくらいです。大雨がふ
て水の流れが悪いままだと、山にふった雨水
が土の中にたまって流れにくくなり、土砂災
いが起きるきげんせいが高くなります。ま
た、川の水があふれて、こり水も起きやすく
なるくらいです。この土砂災がいやこり水をふ
せぐために、祖父の近くの川では、草を切っ

たり、川ぞこにたま。た土砂や石ころを取り
のぞく工事が行われたりです。わたしはこ
の話聞いて、少し安心しました。祖父^{そふ}の住
む地いきは、高れい者が多く、高い建ても
があります。なので、きつとこの工事のお
かげで地いきの人達は、土砂災がいやこう水
のきけんが少しへり、安心してくらせるより
になつたのではないかと思いました。

わたしは祖父の話聞いて、わたしの住む
地いきのぼり災についても考えてみようと思

いました。まず、宮^{みや}崎^{さき}市の洪水^{こうすい}ハザードマッ
プを見て、自分の家が河川^{かせん}洪水しん水深一メ
ートル未満の区^くいきであることを知りました。
次に、近くのひなん所をかくにんしました。
わたしの家の近くは、大きな川が流れていま
す。ハザードマップには、か去に台風や大雨
でしん水した場所もの。ていて、意外と家の
近くでもしん水が起きていたことが分^わかりま
した。いつも台風や大雨になると祖父^{そふ}や祖母^{そぼ}
の事を心配していたけれど、自分も気を付け

ないといけないなと思いました。そのために
ぼう災グッズを用意したり、ハザードマップ
を家族みんなで見つ、ひなん場所をかくにん
したりしたいと思います。

台風や大雨のときのぼう災について考えて
みると、わたしは三つのことに気付きました。
一つ目は、家族や周りの人で声をかけあつて
災がいにあわない行動をとることの大切さで
す。二つ目は、町の中にはぼう災のためのさ
まざまな工事を行つたり、分かりやすいハザ

ードマップを作つてくれたりしてぼう災のた
めに動いてくれている人がいることです。三
つ目に、日ごろからわたし達一人一人が、土
砂災がいなどのぼう災のためにじやんびをし
ておくことが大切だということです。この三
つの気付きをこれからもわすれず、災がいか
らわたしの大切な町や家族を守つていきたい
です。